



BLSO コース

～福井県立病院～

Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである。1991年に開発され、1993年にコース権利は American Academy of Family Physicians (AAFP - 米国家庭医学会)によって認可された。現在全米では多くの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOの受講を義務づけられている。さらにALSOコースは世界的に普及活動が行われており、2009年現在までに、50カ国以上でプロバイダーコースが開催され、10万人以上がALSOコースを完了した。

日本では2008年11月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、約600名がALSOコースを修了した。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師、医学部生、そして救命救急士などであり、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加している。産科救急医療は、産婦人科医だけではすでに成り立たない状況になりつつあることは周知の事実である。日本全国のすべての地域でできるかぎり同じレベルの産科医療を維持するには、産科医療に関わる可能性のある人たちがトレーニングできる場を多く提供し、最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要がある。まさにその足がかりとなるトレーニングコースがALSOであり、今後日本で普及していくことを願ってやまない。

ここ数年、主に病院前産科救急を想定して、ALSOの前段階の産科救急基礎コースとも言えるトレーニングコースが、世界中で実験的におこなわれるようになった。それが、**BLSO (Basic Life Support in Obstetric)** コースである。

BLSOは交通事故などの妊婦外傷を含む病院前の産科救急的対処を強調しており、特に産科救急に突然遭遇する可能性がある救急医、救急ナース、そして救急救命士を対象とした教育コースであると言える。コースは一日コース。少人数グループによる重要ワークショップは正常分娩、分娩第3期の処置、肩甲難産、産後大出血の対処、妊婦外傷への対処、妊婦超音波、そして新生児の処置・蘇生法である。また筆記試験とマネキンによる実技試験がコースに含まれている。BLSOコースを受講し試験に合格した場合、参加者はAAFPとALSO-Japanが認定する5年間有効の認証を受けることができる。

セミナー：BLSO コース(closed course)

主催：NPO 法人 周産期医療支援機構(OPPIC)

開催場所：〒910-8526

福井県福井市四ツ井 2-8-1 福井県立病院

日時：平成23年6月19日(日) 9:30 受付 10:00～17:00(予定)

募集受講定員：closed course



タイムスケジュール

H23年6月19日

	Time	Contents
受付	9:30-10:00	インストラクターは8時よりミーティング
Intro.正常分娩 胎盤処理	10:00-10:45 (5分+40分)	Intro 5分 講義10分 実技30分
肩甲難産	10:50-11:30(40分)	講義10分 実技30分
産後大出血	11:30-12:25(55分)	講義15分 実技40分
昼食 ランチオン(超音波)	12:25-13:10(45分)	
超音波実技	13:10-13:30(20分)	
新生児蘇生	13:40-14:30(50分)	講義20分 実技30分
妊婦外傷	14:40-15:40(60分)	講義20分 実技40分
試験準備	15:40-16:00(20分)	
Mega Code & 筆記試験	16:00-17:00(60分)	